

直結直圧給水の範囲拡大について（お知らせ）

宗像地区事務組合では、小規模受水槽の衛生上の問題の解消、受水槽等の設置費用及び維持管理費用の削減、受水槽等の設置スペースの有効利用など、給水サービス向上を図ることを目的として、平成 23 年 2 月より 3・4 階建ての建築物に限り、直接蛇口まで給水する直結直圧式での給水を採用してきました。

このたび、更なる給水サービスの向上を図るため、平成 30 年 4 月 1 日から、一定の条件を満足する建築物について、直結直圧式での給水範囲を 5 階建ての建築物まで拡大することとしました。

【 直結直圧式給水のメリット・デメリット 】

直結直圧給水とは、水道本管（配水管）の水圧を利用して建物に給水する給水方式です。直結直圧給水には、メリット（長所）とデメリット（短所）があり、これらを十分考慮のうえ、最適な給水方法を採用する必要があります。

メリット（長所）

1. 水道水が直接供給され、新鮮な水が供給される。
2. 受水槽の定期的な清掃・検査が不要である。
3. 受水槽等のスペース及び設置費用が不要である。
4. 受水槽等の維持管理費用が不要である。

デメリット（短所）

1. 配水管の断水時には、直ちに給水停止となる。
2. 配水管の水圧変動の影響を受けやすい。
3. 配水管能力により、一時的に多量の水使用が制限される場合がある。
4. 給水管口径が大きくなる。
5. 給水管内での損失が大きい場合は、採用できない場合がある。

【 直結直圧給水拡大の適用条件 】

「宗像地区事務組合水道事業給水装置の構造及び材質の基準に関する規程」において、水槽式給水を規定している 3 階建て以上の建築物のうち、次の条件を満たす場合、直結直圧給水を採用することができます。

(1) 対象建築物

一戸建て住宅

共同住宅

事務所ビル、倉庫等

病院やホテルなど一定の水圧による常時給水が必要な建物や一時に多量の水を使用する建物は、現行どおりの水槽式給水となります。

(2) 建築物の高さ

末端最高位の給水栓を設置する高さが、道路止水栓取付地点の地盤高さから 3 階

建て建物については 8 . 5 メートル、4 階建て建物については 1 1 . 5 メートル、5 階建て建物については 1 4 . 5 メートル以下となります。

(3) 水圧区分と適用条件

前面配水管の水圧区分による適用条件は以下のとおり

水 圧 区 分 \ 建築用途	一戸建て住宅等	共同住宅	事務所ビル、倉庫等
0.20Mpa 未満の地域	不可能		
0.20Mpa 以上 0.25Mpa 未満の地域	可能	不可能	
0.25Mpa 以上 0.30Mpa 未満の地域	可 能（ 3 階建てまで）		
0.30Mpa 以上 0.35Mpa 未満の地域	可 能（ 4 階建てまで）		
0.35Mpa 以上の地域	可 能（ 5 階建てまで）		

(4) 前面道路の配水管口径

分岐する前面配水管の口径は、5 0 ミリメートル以上であること

(5) 給水管の引込口径

分岐する給水管の口径は 7 5 ミリメートル以下であり、配水管の口径の 2 ランク以下であること。

(6) 水理計算による末端最高位の給水器具での必要最小水圧の確保

末端最高位の給水栓での水圧が水理計算により確保できること

給水管の口径が 50 ミリメートル以下の場合、ウエストン公式とし、
給水管の口径が 50 ミリメートルより大きい場合ヘーゼンウィリアムズ公式
により算出するものとする。

給水器具の必要最小動水圧は、一般水栓 0.03Mpa、給湯器 0.05Mpa とする。

水理計算に用いる水圧は次の表に定めるとおりとする。

水圧分布区分	設計水圧
0.20Mpa 以上 0.25Mpa 未満の地域	0.20Mpa
0.25Mpa 以上 0.30Mpa 未満の地域	0.25Mpa
0.30Mpa 以上 0.35Mpa 未満の地域	0.30Mpa
0.35Mpa 以上の地域	0.35Mpa

給水方式は、直結直圧式によるものとし、直結増圧式は採用しない。

【 問い合わせ先 】

宗像地区水道管理センターまでお問い合わせください。

T E L 0 9 4 0 - 6 2 - 0 9 7 5

F A X 0 9 4 0 - 6 2 - 7 1 1 1